

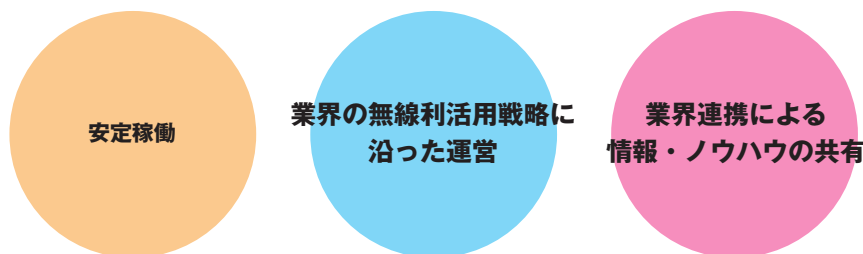
事例  
レポート

## グレース・ワン ケーブルテレビ業界統一コアの 活用メリットと最新状況

ケーブルテレビ業界のローカル 5G 運用を支える業界統一コアと、コアに連携した基地局を利用するケーブルテレビ事業者が増加している。基地局の数は、2024 年には 2023 年から倍増する見込みだ。コアと基地局にはサムスン製の高性能製品を採用。ケーブルテレビ事業者はローカル 5G の商用サービスをコスト、性能、安定性の面で運用しやすくなる。グレース・ワンの業界統一コア・基地局を活用する利点と最新状況、今後の展開をレポートする。

(取材・文：渡辺 元・本誌編集長)

【図1】グレース・ワンが提供する業界統一コアの利点



### 業界統一コアは安定稼働が強み

グレース・ワンの最大の強みは、ローカル 5G のサービス展開に必要な業界統一コアの設備を保有し提供していることだ。

コアは無線システムの心臓部だが、過去には非常に高額であり、ケーブルテレビ事業者が個別に保有することは負担が大きかった。現在では無線技術の進歩に伴い、コアのコストが下がり、ケーブルテレビ事業者が投資可能な金額まで減少してきた。しかし、ケーブルテレビ事業者単独では、ローカル 5G を PoC レベルから商用サービスに移行する際には、複数の事業者、基地局、端末で安定稼働させることが難しいという課題に直面する。

「グレース・ワンは 2019 年に設立し、2020 年からサービス

株式会社グレース・ワン 代表取締役社長  
庄司洋之氏

を開始しました。4G の BWA から始まり、ローカル 5G のミリ波や Sub6 のコアを提供してきました。当社は数年間の経験を積み重ね、運用の知見や運用フローが固まり、コアの効率的運用や安定稼働が可能になりました。ケーブルテレビ事業者に安心してご利用いただけるコアを提供できるのが当社の強みです」(株式会社グレース・ワン 代表取締役社長 庄司洋之氏)。

### サムスン製基地局の特長

グレース・ワンは採用しているローカル 5G 基地局でも強みを持っている。同社は 2023 年から、サムスンのローカル 5G の Sub6 の基地局提供を開始している。サムスンを選定する際には、安定稼働と性能を重要視した。ローカル 5G のシステムは CU、DU、RU の 3 つの設備で構成されているが、サムスンのシステムは 1 台の CU に接続できる RU が 512 台と多く、CU から RU までの距離制限も 200 km と長距離なのが特長だ。

「これにより、各事業者の設備投資を抑制するために、1 台の CU を複数のケーブルテレビ事業者が共有して共同にてご利用いただくことも可能です。例えば、大手ケーブルテレビ事業者の CU に他の事業者が接続したり、近隣の事業者間で CU をシェアしたりするといった形をとれます。

株式会社グレース・ワン  
営業技術部 副部長 営業推進  
チーム チーム長 青山純也氏